キャラクター名
楯無 有牙

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	ボディガード	カヴァー	格闘家
オプショナル		年齢	25	性別	男
覚醒	感染	衝動	自傷	初期侵食率	30 %
出自	親の理解	経験	死と再生	邂逅	幼子(テレーズ・ブルム)

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	0			7
感覚	0	0	1			1
精神	0	0	1			1
社会	2	0	0			2

HP	35
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：	2		芸術：			知識：			情報：裏社会	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
盾（シールド）		16				軍神の守り(破壊の爪, 剛身獣化)
矛（スピア）	白兵	10r+1		+23		ピア+獣の力+コンセ（完全獣化、破壊の爪、剛身獣化)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
変異種	P	N		
テレーズ・ブルム	P 庇護	N 憐憫		
ヒルデ	P 友情	N 悔悟		
	P 尊敬	N 憤懣		
	P 誠意	N 恥辱		
	P 信頼	N 隔意		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2						
効果： クリティカル値を-LV(下限7)								
軍神の守り	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果： 行動なしでのカバーリング。ダメージロール直前、1メインプロセスに1回使用できる								
剛身獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果： シーン中の素手攻撃+[Lv * 2] 装甲値+[Lv*3] 防具と重複								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果： 攻撃Lv+8, ガード1, 命中0								
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果： シーン中「肉体」の能力値を使用した判定のダイスを+[LV+2] ただし、素手を除くアイテムはすべて装備、使用不可								
獣の力	1	2	メジャー	武器	-	対決		
効果： 白兵攻撃 +[LV * 2]								
ピアシング	1	3	メジャー		単体	対決		
効果： -10 貫通								
鋭敏感覚	★		メジャー					
効果： 周囲の状況変化								
眠れる遺伝子	★		オート					
効果： 動物化								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

memo
達成値/10)D+1D+威力

事件前
温厚でお人好し、基本的に誰とでも仲良くなれる性格であった。ちなみに事件後は、自身の体のことがあるため、自身から積極的に誰かと話をしようとは思わなくなったが、基本的な性格は変わっていない。

ジャームの起こした事件に巻き込まれる(大学生　21)
病院で目を覚まし、その後、レネゲイドウイルス感染　キュマイラとなったことを知る
（知る経緯は親から話される） 日常生活ができないほど、力が大きくなる（持ったコップが割れる、箸がおれる、スイッチがめり込む）
医者から紹介されたUGN支部の一つで訓練することでようやく日常生活を送れるまで力の調節に成功(21歳)し、そのまま3年間UGNのエージェントとして活動する。
UGNをやめるきっかけとなったのは、UGNエージェントとして初の護衛任務、テレーズ・ブルムの護衛であった。護衛中、ジャームの奇襲があり、幾度かテレーズを攻撃からかばったことで自身は怪我を負ったが、少女には傷一つなく、そのことが護衛任務後、ひどく誇らしく思えた。（その事件の敵は最終的にフクロウが撃退）
いままでの書類仕事や調査・潜入任務より、誰かを守ることに専念したいと一念発起し、ボディーガードとなる。

ボディーガードになった経緯
カのコントロールが覚束なかった初期のころ、ふいに掴んだ母親の手を骨折させてしまう。
病院で起こったため、すぐに処置され大事には至らなかったが、精神的なダメージを負った。
この事件が両親から責められることはなく、力をコントロールすること、その力を守るために使うことを諭され、誰かを守ることに執着するようになった。テレーズ・ブルムの護衛任務をきっかけに自身の望みが誰かを守ること、であることを自覚。書類仕事や事件の調査に時間を割くより、護衛任務のような仕事をした